

全国書誌通信

No.95

1995. 12. 12

国立国会図書館

目 次

*話題 '95*ネットワーク時代とコンピュータ* 2
村 上 正 志

<印刷カード>

印刷カード契約機関に対するアンケートの集計結果 3

<著者・書名>

書誌データQ & A (2) 標目 7

<分 類>

人名付き書誌分類の廃止について 10

<刊行のお知らせ>

「NDL CD-ROM Line 国立国会図書館 明治期」刊行のお知らせ
..... 11

<お知らせ>

図書の一部利用休止のお知らせ 12

ネットワーク時代とコンピュータ

村上 正 志

当館では今年の3月に館内LAN(Local Area Network)の敷設工事が終了して、ネットワーク時代に向けての情報通信施設の整備がひとまず終わった。これに伴って、ホストマシンにつながる全館の端末専用機を、年次計画でLAN接続のパソコンに置き換えてゆくこととし、10月末までに約70台のパソコンを導入した。また、5月には学術情報センターの運営するSINETへの接続が行われ、これを機に、館内職員を対象にLANの説明会とインターネット利用のデモンストレーションを企画したところ、約200人が参加する盛況となり、この分野における関心の広がりを見せた。

当館の場合、すでに膨大なデータベースや多くの運用中のシステムをかかえており、これらのセキュリティの問題を解決するために、電子メールやインターネットの利用等外部ネットワークとのやりとりは慎重を期することにした。基本的な安全策は館内と外部のネットワーク間にゲートウェイを設けて情報の出入りを監視し、不正なアクセスを防止しようとするものだが、制限を強化すると、使い勝手が悪くなるので、両者の兼ね合いが難しいところである。

ところで、近年のダウンサイジングの流れの中で、高価格で運用経費のかかる汎用大型機の旗色が変わってきた。大規模データベースのオンライン検索や大量のトランザクション処理の分野では、いまだに汎用大型機が主流であるが、この分野でも、並列型計算機の導入が始まるなど新しい動きが見られる。最近、ある大学の電子計算機センターが導入した超並列型計算機は、CPUを1024個並列につなぎ、主記憶総容量は256GBに達するという。これは当館のホストマシンの2000倍にあたる。大規模なデータベースを擁し今後ますます増勢にある当館でも、大型機中心のシステムから分散型に移行するのか、あるいは新しい形態のコンピュータを導入するのかを検討する時期がいずれくるかもしれない。

急速に進展するネットワーク環境の中で、当館のもつ資源を活用し、一層充実した図書館サービスを実施していくために、目的や機能が異なるコンピュータを、それぞれの特性を生かしながら、効果的に組合わせてシステムを構築していくことが今後の課題となっている。

(むらかみ まさし 情報処理課長)

印刷カード契約機関に対するアンケートの集計結果

8月25日発行の全国書誌通信第94号に添えて、印刷カード契約機関にアンケートをお願いしました。このアンケートは、印刷カードと全国書誌通信について伺い、9月30日に締め切りました。

印刷カードについては、日頃どのようにお使いになっているか、また、近年の機械化に伴い、各機関が将来的にどのくらい需要がおりになるか。全国書誌通信については、どういう記事をお読みいただいているか、また、今後どういう内容が望まれるかを伺うものです。どちらも日頃一方通行になりがちなので、各機関のご意見を伺いたくアンケートを行いました。

集計結果は、以下のとおりです。

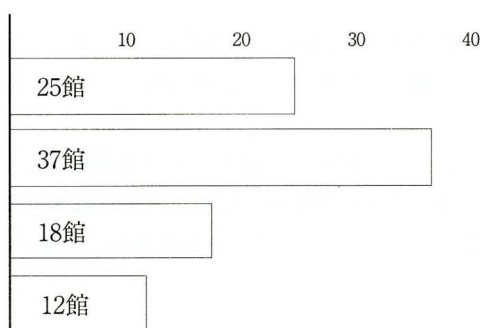
アンケートは、77機関にお願いしました。

回答は62機関から寄せられ、回収率は80.5%です。

(なお、締め切り後に寄せられた回答もできる限り集計に加えしました。)

契約の種類

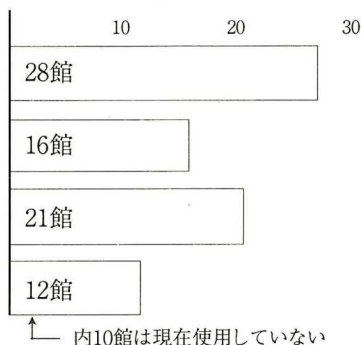
1. 甲種
2. 乙種
3. 予約セット
4. ISBN実験



※契約は1機関で複数の種類があるため、合計は62機関より多くなっています。

I. 印刷カードをどのようにお使いですか？

1. 利用者の検索用として使用している
2. 選書ツールとして利用している
3. 資料管理のデータとして使用している
4. その他



※複数回答のため、合計は62機関より多くなっています。

II. もし、当館が印刷カードの作成を取り止めた場合について

- | | |
|----------------------------|------|
| 1. 事前に連絡を受ければ、対処できる。 | 19 館 |
| 2. 当館による印刷カードの代替サービスを希望する。 | 6 館 |
| 3. 当館の事情にかかわらず、他の手段に変える予定。 | 20 館 |
| 4. その他 | 17 館 |

1. 事前に連絡を受ければ、 対処できる。	2. 代替サービス 希望	3. 他の手段に変える予定	4. その他
19 館 (30.6%)	6 館 (9.7%)	20 館 (32.3%)	17 館 (27.4%)
予告期間		今年度中 6 館	自館努力 1 館
半年以内 9 館		一年後 3 館	印刷カード継続希望 14 館
一年位 8 館		その他 1 館	その他 2 館
その他 2 館		現在使用していない 10 館	

※ なお、「代替サービス希望」のうち「印刷カードまたは、印刷カードと同様のものを希望すると書かれたものは、4. その他のうち「印刷カード継続希望」に含めて集計しました。

以上のとおり、印刷カードは各機関により様々にご利用いただいていることが分かりました。

また近年の機械化の影響で、契約機関の多くが、印刷カードから J-BISC 等に切り替えていることも分かりました。(参考資料「印刷カードについて」も御覧ください)

III. 年 4 回発行している「全国書誌通信」についておたずねします

イ. お読みいただいていますか



ロ. 役にたった記事、印象に残った記事がありましたらお書きください。

- ・統一読みカナ表記実例集（多数館）、書誌データQ&A（多数館）、分ち書き、週及入力の情報、著者名の読み、新設件名標目一覧など

ハ. 取り上げて欲しい記事がありましたら、お書きください。

- ・外国人名の読み（特に英語圏以外の国、地域）
- ・JAPAN/MARCの最新動向（改定など）
- ・J-BISCの有効な利用方法、実例など
- ・全国の図書館のOA化進行度や、目新しいサービスについての情報
- ・NCRかNDCについての国会図書館の適用などの記事
- ・分ち書き

Ⅳ. その他、当館の書誌サービスに関してご要望があればお書きください。

- ・日本全国書誌には、書店ルートに乗らない出版物の情報もあり、選定ツールとして活用しています。
- ・年2回程度、典拠データをCD-ROMなどで公開して欲しい。
- ・J-BISCは年4回更新なので、更新頻度を検討して欲しい。
- ・J-BISCで検索できないものの調査依頼
- ・タイムラグを少なくして欲しい。
- ・日本全国書誌に毎号索引をつける話を聞いたことがあるが、是非付けて欲しい。

全国書誌通信は、ほとんどの機関でお読みいただき、各記事が業務の参考になっているということでした。

およせいただいたご意見を参考に今後の編集を考えていきます。

また、今回、ここ数年印刷カードのご注文の無い機関に「契約の見直し」をお願いいたしました。ほとんどの機関が機械化し現在印刷カードは使っていないというご回答でした。

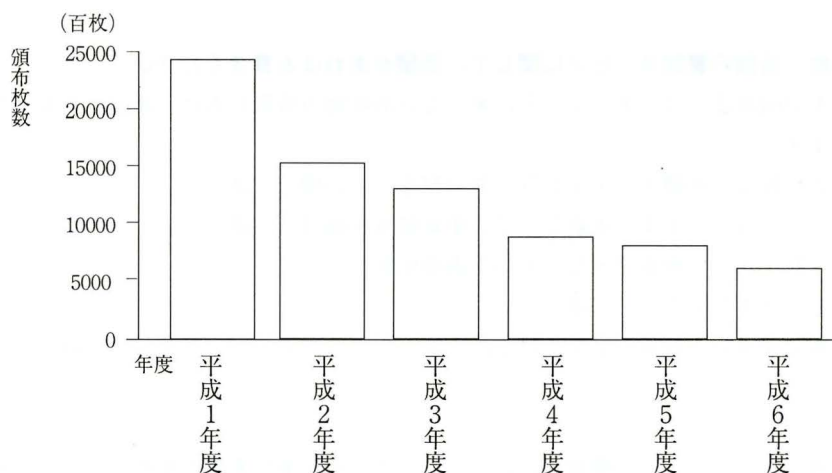
お忙しいところご協力いただきありがとうございますございました。

(参考資料)

印刷カードについて

印刷カードは、国内の各図書館の目録の統一、目録作成水準の向上、目録業務の能率化等を目的として、昭和25年から、作成・販売しています。現在は、「日本全国書誌」やJAPAN/MARCと同一の和図書データの電算処理により作成しています。

頒布統計（年度による推移）



年度別頒布枚数

平成1年度	平成2年度	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度
2,431,391枚	1,511,784枚	1,296,098枚	818,412枚	736,098枚	589,718枚

書誌データQ&A（2）標目

Q. 同姓同名の人は、どうやって区別しているのですか。

A. 読みも漢字形（外国人の場合は原綴形）も全く同じである同姓同名の著者が存在する場合、区別の方法として、著者標目に生（没）年を付記しています。なぜ生（没）年かと言いますと、個人を他人と区別するときに、生（没）年が最も不変かつ客観的な情報であるからです。

生（没）年が不明な場合は職業や専門分野を付記し、生（没）年も同じ場合は、それに加えて、職業や専門分野を付記して区別をしています。

(例) 鈴木健二 鈴木健二 (1929生 アナウンサー)
 鈴木健二 (1922生) 鈴木健二 (1929生 美学)

Q. 「山田風太郎」は、奥付のルビでは「ヤマダ、フウタロウ」ですが、著者名典拠では「ヤマダ、カゼタロウ」となっているのはなぜですか。

A. 当館での著者名の読み方は、その著者の著作が初めて当館に入った時点で確定します。「山田風太郎」氏の場合は、『眼中の悪魔』が入った時点で、『文化人名録（昭和28年版）』により「ヤマダ、カゼタロウ」と読むことにしました。

著作の奥付や標題紙などにふり仮名がある場合は、それを典拠にします。ただし、大学等の研究者はa『研究者・研究課題総覧』で、各界の著名人等の場合はb『人事興信録』c『文化人名録』等で確認します。それは、これらが本人の回答をもとに編集されているからです。

その他、著作からは読み方がわからない場合、他の方法で調べます。正確さから下記の順位としています。

- A：著者本人・家族の回答
- B：勤務先の回答、前述資料 a b c
- C：著作中、共著者を含む知人の回答、人名辞典など
- D：出版者、その他

そのため、著者ご本人やご家族のお申し出等の、より正確な情報から、すでに作成された典拠を訂正する場合があります。別名・筆名等その他の情報も著者名典拠に追加することもあります。なお、J-BISC、NOREN等の書誌データは標目に立っていない別名・筆名からの検索はできません。当館の閲覧用カード目録には参照カードが入っていますので、検索できます。

Q. 「渋沢竜彦」は、正しくは「澁澤龍彦」ではないでしょうか。

A. 漢字の採用については「漢字等の字種採用の基準」（全国書誌通信 No. 81 1992. 3）に従っております。

つまり、「漢字モードで表記するデータ部分の文字符号系については、原則としてJIS C 6226-1978（情報交換用文字符号系）の漢字コード体系を使用する。ただし、漢字の新旧字体や同意味で使用されている一部の俗字、別体字等の漢字については、字体の統一のため置き換えを行う。また、可能な限りJISコードの範囲内に収めるが、どうしてもその範囲内に収まらない文字については、例外として追加文字を定め、外字を作成する。」となっています。この例は、その基準の

うちの「常用漢字表および人名漢字表に含まれる漢字については、旧字体を新字体の漢字に置き換える」に当たります。

また、異体字等の漢字の字形や意味の判断は、以下の漢和辞典に即して行っています。

①大漢和辞典 諸橋轍次著 大修館書店

②新字源 小川環樹〔ほか〕著 角川書店

「新字源」をみると「澁」「澤」「龍」「彦」は旧字となっており、新字体に置き換えた結果が「渋沢竜彦」の漢字形になります。

Q：「藤原定家」は、著者標目では「フジワラ, サダイエ」ですが、書名中にてくると、なぜ「フジワラ△ノ△サダイエ」になるのですか。

A：著者標目についてはNCR新版予備版の3.4.3.2.2「日本のおおよそ中世までの人名で慣用される、姓と名の間の「ノ」の読みは原則として採用しない」という規定によって決定しています。書名中に出てくる人名の読みは、著者名典拠があれば原則として典拠の読みを採用しますが、古典的な人名で、一般に「～の～」の形をとる人名については、1994年5月以来事務用マニュアルにより、広辞苑にその形でのっていれば「～の～」の読みを採用します。同様の読み方をする人名には、「源実朝」「在原業平」などがあります。

Q：砥部町教育委員会が企画編集した『砥部町の歴史』という本の書名の読みは、「トベマチ△ノ△レキシ」あるいは、「トベチョウ△ノ△レキシ」のどちらで読むのでしょうか。また、著者はどちらで読んだら良いのでしょうか。

A：書名、著者名に出てくる町名や村名は、『全国市町村要覧』『日本分県地図地名総覧』によりますが、行政単位のものであれば、この中で「チョウ」「ソン」と読んでいても、当館ではすべて「マチ」「ムラ」と読みます。したがって、『砥部町の歴史』は、「トベマチ△ノ△レキシ」と読みます。同様に、著者は「トベチョウ△キョウイク△イインカイ」ではなく「トベマチ△キョウイク△イインカイ」と読みます。ちなみに、行政単位でない「永田町」などはそのまま「ナガタチョウ」と読んでいます。

Q：『みなづき』という本のふりがなが「日本全国書誌」では「ミナズキ」となっていました。なぜ「ミナヅキ」でないのですか。

A：当館ではNCR新版予備版の付則7.1「片かな表記法」にしたがって標目のカナ表記を行っており、発音の同じ「ジ」「ヂ」、「ズ」「ヅ」においては「ヂ」「ヅ」は使用せず「ジ」「ズ」に統一しています。そのため、本来は「ヂ」「ヅ」で表記するのが正しい語であっても標目上は「ジ」「ズ」と表されることになります。

(例) プリヂストン タイヤ → プリジストン△タイヤ

三日月 (ミカツキ) → ミカズキ

続き (ツヅキ) → ツズキ

また、「キ」「エ」「ヲ」の仮名はそれぞれ「イ」「エ」「オ」に統一しています。

(例) キタ・セクスアリス → イタ△セクスアリス

スリーディーセイザ
Q:『3D星座』という書名の読みは「サンディー△セイザ」となっています。また、『剣客商売』はケンキョクシヨウバイという読みが付与されています。どうしてふり仮名の通りに読まないのですか。

A: 図書の主要情報源にふり仮名(ルビと呼んでいます)がある場合は、原則としてその読みを採用する方針ですが、以下のケースに限り、ルビを採用していません。

- a. すでに典拠として確立した著者名がある場合
- b. 典拠作成で用いる参考図書の地名・団体名等、固有名読みの異なる場合
- c. 「統一読みカナ表記実例集」(全国書誌通信 No. 91・94に掲載)と異なる読みの場合
- d. 文化財の発掘調査関係に類出する用語で、特に定めた読み方を行う場合
- e. 数字・記号等、特に定めた読み方を行う場合

『3D星座』の場合はeに当たります。「数字の読みは原則として日本語の読みを基本とし、ルビは採用しない。」と事務用マニュアルで定めています。ただし、例外もあり、例えば『銀河鉄道スリーナイン999』のように固有名詞として数字が使われている場合などはルビを採用しています。『剣客商売』の場合はcに当たります。(全国書誌通信 No. 91 参照)

一方、『オモチャたちの午後』という書名の場合は前述のa～eに当てはまらないのでルビ採用となりますが、裏を返して言えば、ルビを知らないとNOREN, J-BISCのカナ検索はできないわけです。このように、タイトルの読みをひとつに限定する現行の方針では、別の読みからの検索は不可能となっています。将来的には、漢字検索と同時に、ルビ読み・通常読みを問わず、複数の読みの付与が可能なシステムに移行したいところです。

Q:「MS-DOS」に関する文献を検索する時はどう読めばよいのですか。

A: コンピュータ関連の欧文用語を含む書名については、一般的な欧文書名の読みの規則(NCR 新版予備版付則 7.1.3「アルファベット表示の固有名、語句」)に従い、書名の読みをつけています。

1. 書名中に和語が混じっている時、または欧文のみの書名だがルビがふってある時はカナ読みで検索します。

(例) 『MS-DOS読本』 → 「エムエス△ドス△ドクホン」
『MS-DOS』 → 「エムエス△ドス」

(ルビと統一読みが異なる場合は、原則として統一読みに合わせています。)

2. 欧文のみの書名でルビがない時はアルファベットで検索します。

(例) 『Hyper MS-DOS』 → 「Hyper△MS△DOS」

(Hyperは大文字でも検索可)

しかし、1992年11月以降は事務用マニュアルを定め、「一見欧文書名だが、特に読みを定めているものはカナ読みする」としました。「MS-DOS」は「エムエス△ドス」と定めているため、以後整理しているコンピュータ関連の図書については、他の読み方やアルファベットでの検索はできません。

(以上に述べている‘カナ読み’に関しては、読み方が不明確の場合には、出版者に確認の上、読み方を決め、以後は原則として、それにあわせて統一読みをするようにしています。)

従って、MS-DOSに関する文献全般を検索したい場合、カナ読み、アルファベットの両方で検索することになります。

人名付き書誌分類の廃止について

国立国会図書館分類表による分類記号のうち、分類目録の2次配列を想定した人名付き書誌分類記号を「日本全国書誌」1996（平成8）年1号（JP番号96）から廃止します。

かわりに排架分類記号を書誌分類記号として使用します。

JP番号95以前は従来のとおりです。（遡及訂正は行いません）

◎日本全国書誌記入例

GK131-E77 ← 排架分類記号
「菅江真澄」読本 田口昌樹著 秋田 無明舎出版 1994.
4 226p 19cm
参考文献:p224~225 1800円
1. スガエ マスミ ドクホン al. タグチ, マサキ sl.
菅江真澄(1754~1829) ①GK30-スガエ, マスミ(菅 ← 書誌分類記号
江真澄) ②289. 1
(JP95-65124) *

◎JAPAN/MARC入力例

「JAPAN/MARCマニュアル 図書編」p.63（タグ 685 国立国会図書館分類表による分類記号；タグ 905 国立国会図書館の請求記号）参照

J P 95以前

685 \$ A G K 30-スガエ, マスミ (菅江真澄) \$ X G K 30-Sugae, Masumi (菅江真澄) #
905 \$ A G K 131-〇〇

685 \$ A G K 410-Curie, Marie (Sklodowska) #
905 \$ A G K 423-〇〇

J P 96以降

685 \$ A G K 131 #
905 \$ A G K 131-〇〇

685 \$ A G K 423 #
905 \$ A G K 423-〇〇

なお、NDLC分類目録で従来どおり人名で2次配列を行う場合は、個人名件名（タグ 650）を利用して配列できます。

「NDL CD-ROM Line 国立国会図書館蔵書目録 明治期」

刊 行 の お 知 ら せ

明治期刊行図書の遡及入力データは、オンライン、磁気テープ、冊子体目録の形ですでに提供していますが、平成7年9月にCD-ROMを刊行しましたので、簡単に紹介します。

1. 名 称	「NDL CD-ROM Line 国立国会図書館蔵書目録 明治期」
2. 収録範囲	明治年間に刊行された和図書、および国内刊行の欧文図書。継続刊行で大正期に及ぶ図書と日本人、日本機関によって外国で刊行された図書も含まれる。
3. 収録件数	113,319件
4. データの種類	「国立国会図書館所蔵明治期刊行図書目録」(昭和46～51年刊)をベースに入力したデータ(JP番号が40,41で始まる109,826件)と同目録刊行後に受け入れた明治期刊行図書を入力したデータ(JP番号が48～93で始まる3,493件)を合わせて収録。
5. 編集・製作・発行	国立国会図書館
6. 価 格	326,000円(税別)
7. 製作協力・発売	紀伊國屋書店

このCD-ROMは、J-BISC仕様で製作しましたので、検索画面、検索手順はJ-BISCと同じですが、明治期データの特徴により検索項目、検索方法に若干の相違があります。検索の際には、CD-ROMに添付しました『利用の手引き』を参照下さい。

刊行年で検索する場合は、西暦ではなく明治の年号で行います。メニュー検索画面上、固定されている19[]年～19[]年の19を無視して、[]内に明治の年号2桁を入力します(明治2年→19[02]年)。継続刊行で大正に及ぶ場合も、明治に置き換えるため44を足します(大正10年→19[54]年)。検索の便を考慮して、「西暦と年号の対照表」を付しました。

JP番号が40,41で始まるデータは、①書名だけでなく副書名、内容細目中の書名、さらに出版者も、正確なヨミを付しました。②件名は、人名件名のみ付与しました。③NDCは、新訂6版の要目表(3桁)を基本に付与し、部分的に細目を使用しました。資料の多少により複数の主題を一つの分類に集めた箇所があります。『利用の手引き』に「明治期CD-ROM NDC分類表」を載せました。④使用していない検索項目は、NDL分類、IBSN、官公庁コード、印刷カード番号です。

国立国会図書館

図書の一部利用休止のお知らせ

大規模改修工事実施のため

平成8年2月1日から3月3日まで

昭和25年以降受け入れた和図書
昭和21年以降受け入れた洋図書 の閲覧を休止いたします。

図書館への貸出サービス・郵送複写サービスは平常どおり行います。

ただし、現在利用できない次の図書は、引き続き平成8年3月31日まで、閲覧、図書館への貸出サービス、複写サービス、いずれもできません。

昭和25年から昭和43年までに受け入れた全分野の和図書

昭和44年から昭和62年までに受け入れた宗教・文学・科学技術・学術一般等分野の和図書

明治から昭和24年までに受け入れた和図書
昭和20年までに受け入れた洋図書 はご利用になれます。

雑誌・新聞および各専門資料室の資料は平常どおりご利用になれます。
レファレンス・サービス、複写サービスも平常どおり行います。

専門資料室は次のとおりです。

法令議会資料室、参考図書室、官庁・国際機関資料室、憲政資料室、科学技術資料室、アジア資料室、特別資料室、音楽・映像資料室、地図室、古典籍資料室、新聞閲覧室、図書館学資料室

工事期間中は利用者の皆様にご不便をおかけいたしますが、ご了承下さい。

<図書の一部利用休止のスケジュール>

平成 7 年 10 月

(受入年) 明治元年 大正元年 昭和元年 昭和 25 年 昭和 43 年 昭和 62 年 現在

和 図 書

<p>ご利用になれます。</p>	<p>全 分 野</p> <p>平成 7 年 9 月 から 8 年 3 月 31 日まで閲 覧、図書館へ の貸出サービ ス、複写サー ビスを休止</p>	<p>宗教・芸術・文学・科 学技術・学術一般等 の分野。平成 7 年 9 月 から 8 年 3 月 31 日まで 閲覧、図書館への貸出 サービス、複写サービ スを休止</p> <p>平成 8 年 2 月 1 日から 3 月 3 日まで閲覧を休止。ただし、 図書館への貸出サービス、郵 送複写サービスは行います。</p>
------------------	--	---

洋 図 書

<p>ご利用になれます。</p>	<p>平成 8 年 2 月 1 日から 3 月 3 日まで閲覧を休止。 ただし、図書館への貸出サービス、郵送複写サー ビスは行います。</p>
------------------	---

昭和 20 年

問合せ先—国立国会図書館 03(3581)2331(代表)—

日本全国書誌(図書)……………	図書部図書整理課	(内) 3520
日本全国書誌(逐次刊行物)……………	収集部国内資料課	(内) 3157
ジャパン・マーク……………	総務部情報処理課	(内) 2401
印刷カード……………	図書部図書整理課全国書誌係	(内) 3517
国立国会図書館蔵書目録……………	図書部書誌課	(内) 3601
書誌データの内容について		
記述……………	収集部国内資料課	(内) 3015
標目(著者・書名)……………	図書部図書整理課著者書名係	(内) 3524
標目(分類・件名)……………	図書部図書整理課分類件名係	(内) 3526
出版社の住所の照会について		
図書館から……………	図書館協力部国内協力課図書館サービス係	(内) 5115
民間から……………	収集部収集課納本調査係	(内) 3013

全国書誌通信 (不定期刊) No.95 1996年12月12日発行

(『印刷カード通信』の改題)

編集・発行 国立国会図書館図書部図書整理課
〒100 東京都千代田区永田町1-10-1

発売 (株)日本図書館協会 電話 03(3410)6411
定価 300円(本体291円)送料 130円